

令和5年度国有林野事業業務研究発表会 発表課題一覧

《森林保全部門》

No.	発表時間	発表課題名	発表者			概要
			森林管理局	森林管理署等(元所属)	氏名	
1	10:30 ～ 10:50	足尾荒廃地における航空レーザ測量を用いた土砂流出調査	関東	計画保全部治山課 (日光森林管理署)	田中 裕貴	足尾銅山の煙害により荒廃した斜面の一部を環境教育等の目的の下に「観測監視地区」として保存・管理している。2時期のLPデータを差分解析し、当地区からの土砂流出を試算することで「観測監視地区」としての管理の継続を判断した。
					諸星 智之	
2	10:50 ～ 11:10	単木保護の効果的な設置の取組	四国	高知中部森林管理署	森下 嘉晴	単木保護実施個所における野生動物の食害に対して、野生動物の採食行動の観察と地形の影響を調査し、食害対策として有効な保護資材の高さと設置方法を比較・検証したので報告する。
					萩野 伸二	
					立石 将彬	
【休憩 10分】11:10～11:20						
3	11:20 ～ 11:40	「自然環境に配慮したシカ対策」 —シカネット回収から再生利用—	九州	林野庁国有林野部業務課 (宮崎森林管理署都城支署)	増井 琴羽	将来的に山がマイクロプラスチックの発生源とならないために、近年関心の高まる持続可能な開発目標(SDGs)の観点から、役目を終えたシカネットの回収、自然素材の検討、資材の再生利用に取組んだので発表する。
				森林整備部技術普及課 (宮崎森林管理署都城支署)	坂本 徹也	
4	11:40 ～ 12:00	釜ヶ峰アベマキ巨木の成立過程、現況及び今後の管理について	近畿中国	島根森林管理署 (計画保全部計画課)	西村 貴太	高齢級のアベマキが優占し、遺伝資源希少個体群保護林に指定されている釜ヶ峰国有林において、年輪解析や過去の文献調査等の結果から、成立過程や現況の評価、ナラ枯れ被害の状況把握と保全対策の検討等を行ったので発表する。
【昼休み 1時間10分】12:00～13:10						
5	13:10 ～ 13:30	大量集積型おとり丸太法の実施 ～民国連携によるナラ枯れ対策～	東北	津軽森林管理署	福島 和将	令和3年度から、「青森県ナラ枯れ被害対策基本方針」に基づき県と国で連携し、民有林、国有林双方におとり丸太を設置する防衛ラインを作り対策したところ被害拡大の抑制効果があったので取組を紹介する。
					郡司 耕平	
				総務企画部企画調整課	内田 朋紘	

《森林ふれあい部門》

No.	発表時間	発表課題名	発表者			概要
			森林管理局	森林管理署等(元所属)	氏名	
1	13:30 ～ 13:50	官行造林地を含む森林整備推進協定締結への取組 ～新郷村の例～	東北	宮城北部森林管理署 (三八上北森林管理署)	千葉 いずみ	新郷村において民有林と国有林が隣接する地域の効率的な森林整備に向けて、新郷村、地域の林業・木材産業関係者と森林整備推進に係る五者協定締結に至るまでの取組を紹介する。
2	13:50 ～ 14:10	森林経営管理制度を踏まえた市町村支援について ～岐阜署における民有林支援の取組～	中部	岐阜森林管理署	松下 康弘	森林経営管理制度や森林環境譲与税などが導入され、市町村による一層の森林整備への取り組みが期待されているが、地元市町村がこの制度を有効活用できるよう岐阜森林管理署が行った民有林への支援・連携の取組を発表する。
				下呂市	小池 徳一	
【休憩 10分】14:10～14:20						
3	14:20 ～ 14:40	徳島県の森林・林業関係学校への人材育成支援について	四国	徳島森林管理署	佐藤 ひより	徳島県、公益社団法人徳島森林づくり推進機構及び四国森林管理局の3者による人材育成連携協定に基づく、林業現場の即戦力となる人材を育成する「とくしま林業アカデミー」や県内の林業関係学校への人材育成支援の取組について報告する。
					中川 往樹	
4	14:40 ～ 15:00	高尾山におけるボランティア団体等と連携した森林保全活動(歩道修繕)の取組について	関東	高尾森林ふれあい推進センター	久保 武典	近年、高尾山では健康増進や森林環境教育の一環として、高齢者や児童による登山者が多く見受けられる。このことから歩道での転倒や転落による事故防止のため、ボランティア団体等と連携した森林保全活動(歩道修繕)の取組を報告する。
【休憩 5分】15:00～15:05						
5	15:05 ～ 15:25	地域住民に認知される国有林を目指して ～ビジタースポット及びデジタル森林浴を活用した国有林PR～	北海道	上川北部森林管理署	岡村 澄香	国有林PRのために取り組んだビジタースポットやデジタル森林浴の実施状況・成果や課題点等について発表するとともに、他署でも取り組めるPRの手法について提案する。
				網走西部森林管理署 (上川北部森林管理署)	小林 昌志	

【休憩 15分】15:25～15:40

特別発表の説明、発表課題及び発表者の経歴紹介(10分) 15:40～15:50

特別発表	15:50 ～ 16:10	「低コスト造林技術の実証と民有林への普及」に向けて～次世代造林プロジェクトの取組～	九州	森林技術・支援センター	白濱 正明	低コスト造林技術の実証と民有林への普及等を目的に、各研究機関と連携し取り組んできた「低コストモデル実証団地」が第1期試験研究期間を終え、その後九州各署等へ取組が拡大し、成果の一部が同局の「新しい林業実行プラン」に位置づけられたことから、これまでの成果と今後の取組について発表する。
------	---------------------	---	----	-------------	-------	--

《森林技術部門》

No.	発表時間	発表課題名	発表者			概要
			森林管理局	森林管理署等(元所属)	氏名	
1	10:50 ～ 11:10	各署でできる！林道事業におけるICTの実践～動画から生成した三次元点群の利用～	東北	岩手南部森林管理署	吉川 秀平	UAV写真測量は上空からの自動飛行による写真撮影が必要なため、林内での活用は進んでいない。そこで、林内で撮影した動画から三次元点群を生成する方法に着目し、林道事業への活用可能性を検討したので報告する。
					森 晃平	

【休憩 10分】11:10～11:20

2	11:20 ～ 11:40	森林土木工事におけるICT施工の取組について	四国	安芸森林管理署	川口 慎弥	近年の建設業者減少や担い手不足などの諸課題への対策として、「森林整備保全事業ICT活用工事試行実施要領等について」に基づき発注した、ICT活用工事の技術や知識について、安芸森林管理署における取組状況と現場実態等を報告する。
					山口 健太郎	
3	11:40 ～ 12:00	安価な玉ねぎ包装用ポリネットを利用したシカ食害対策の開発と実用化	関東	群馬森林管理署	松井 琢郎	シカ被害対策の単木保護について、安価な玉ねぎ包装用ネットを利用した単木保護技術の開発に取り組んだ。その有効性や課題、コストの低減について発表する。
					山中 恋	

【昼休み 1時間10分】12:00～13:10

4	13:10 ～ 13:30	天然力を活用した低コスト再造林技術への取組～「表土戻し」地拵による天然更新～	北海道	上川中部森林管理署 (空知森林管理署北空知支署)	谷本 直緒子	天然力を活用した低コスト再造林技術となりうる「表土戻し」地拵の普及に向け、表土戻しと通常の地拵施工地における天然更新木や下層植生、植栽木の成長について調査し、施業の効果と低コスト化の可能性を検証した。
				上川北部森林管理署 (空知森林管理署北空知支署)	中嶋 佑輔	
5	13:30 ～ 13:50	新しい林業への挑戦～クラッシャー地拵えの検証～	中部	北信森林管理署	前田 賢吾	当署では平成25年度に中部局で初めて、伐採・造林一貫作業システムを導入して以降、下刈りの省略等、様々な調査・検証を実施しており、新たな造林コスト縮減に向けた取組として重機による根株を切削するクラッシャー地拵えについて、調査・検証を実施したので、その検証結果について発表
					渡澤 徹	
6	13:50 ～ 14:10	滑山国有林における2,000本/ha植栽の検証及び造林コストの削減について	近畿中国	山口森林管理事務所	平木 里南	当局では平成15年に造林方針書を改正し2,000本/ha植栽として20年が経過したところ。今般、2,000本/haと3,000本/ha植栽の生育状況の違い、一貫作業システム等によるコスト削減効果を検証したので発表する。
				広島森林管理署 (山口森林管理事務所)	竹下 茜	
				山口森林管理事務所	佐藤 博雅	

【休憩 10分】14:10～14:20

7	14:20 ～ 14:40	低コスト造林への挑戦～低密度植栽地の調査結果から最適な再造林に向けて～	近畿中国	岡山森林管理署	芦谷 初樹	低密度植栽試験地での植栽本数密度ごとの生育状況を比較するとともに、低密度植栽での下刈り期間や林地保全の観点から植栽本数別にうっ閉期間を予測し、低コスト化と健全な森林育成について検討を行ったので発表する。
					赤瀬 誠太郎	
8	14:40 ～ 15:00	九州地域における低密度植栽の検証について	九州	森林技術・支援センター	岩下 正斉	平成17年度に実施した、低密度植栽(1,500本/ha)について、植栽後16年経過時の成長状況等の調査を行い、その結果を取りまとめるとともに、造林コスト低減における有効性を検証したので報告する。

【休憩 5分】15:00～15:05

9	15:05 ～ 15:25	帯状伐採による育成複層林施業について～伐採幅と植栽木成長の関係～	中部	木曽森林管理署	内藤 貴幸	平成15年度に林齢74年生の人工林ヒノキを20m、30m、40m幅で帯状伐採し、その後植え込みを行い平成25年度まで成長量等を比較してきた。その後の検証として令和3年度に改めて植栽木の成長量等の調査を実施したので結果を中間発表する。
					内田 ゆき奈	